

① わたしはオシャレキャットという本をよみました。

② なぜこの本を読もうと思ったの？お話の内容を分かりやすく  
③ 言ってみよう。

④ この本をよもうとおもったのは、このだいにオシャレがついている  
からです。りゆうはオシャレにあこがれているからです。

⑤ この本のないようは大金もちのおやしきにすんでいた四ひきのね  
こにしつじがいじわるをして、ともだちになったねこたちときよう  
りよくして、いえにかえってきたおはなしです。

⑥ しつじがおばあさんの大金ほしきにかわいがられていた四ひきの  
ねこ達をすてに行つたんだけど、野らネコ達が親切に帰るまで協力  
してくれたね。

⑦ どんなどころが心に残つたかなあ。

⑧ マリーが風ではしのうえからおちたときにオマリーがたすけたの  
がこころにのこりました。

⑨ オマリーは出会つた野らネコだね。初めて会つたのにすぐに助けに  
川にとびこむ事ができるなんて、勇気があるね。なぜそこが心への  
こつたの？

⑩ オマリーがなにかんがえずにマリーをたすけたのがこつこいい  
です。

⑪ 本を読んで思つたことや、学んだこと、みんなに伝えたいことは？

⑫ わたしは、これからこまっている人をたすけていこうとおもいまし  
た。

⑬ こまっている人がいたら勇気をもって助けてあげられる事をしよ  
うね。そうしたら、いつの間にかみんな仲良く幸せになつたね。

「まちがいけしごむは、まちがついているところをぜんぶけしてるから、  
まちがつるところだけけせてあつてるところはけせない。」

① 「あなたはこのけしゴムほしい？」

② 「ほしい！」

③ 「どうして？」

④ 「まちがつている所がけせて、あつているのか、まちがつているのか  
が分かるから。」

⑤ 「勉強だけに使う？他にも使いたいことある？」

⑥ 「あるよ。」

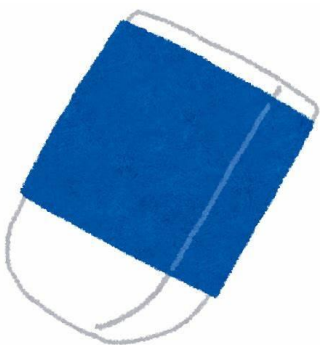
⑦ 「けしたい物は？」

⑧ 「おちているゴミ、ちらばっているゴミ。」

⑨ 「そうだよね。ゴミがないときれいだよね。」

⑩ 「ゴミがなかったら空気もきれいだし、動物も木も海もよろこぶから。」

なので、ぼくはまちがいけしごむをもっていたらゴミをけしたいです。



【子】わたしは、本を読むのは、すきだから、どくしょかんそう文のしゆくだいが出たときにうれいな。どんな本かな？という気もちになりました。まちがいけしごむには、オムくんという人が出てきます。

そして、テストでつかってせいせきがとでもよくなったりボタンの花が生えたりキリンとゾウにしかられたりします。

さいごはまちがいけしごむがなくなつたので、あわててつくろうとしましたがふつうのけしごむが出た話です。

この本で気になつたところは、まちがいだけをけせるけしごむだということとここです。ここが気になつたりゆうは、ふつうのけしごむなら、あつていたこたえでもけせるからです。オムくんがこくごやりかでまちがいけしごむをつかつたのを読んで、わたしは、「うらやましいな。オムくんいいな。」という気もちになりました。ほかに、とれたボタンから花が生えてくるところが気になりました。

なぜならオムくんがけしたところから生えてくるならふつうは、あなが一つしかないボタンが生えてくるわけがないからです。

わたしがオムくんだったら、ボタンをけしてボタンのあなが一つしかない花をそだてます。

この本を読みおわつて、わたしはまちがいけしごむをオムくんからもらいたいなどおもいました。オムくんはあわてんぼうで、べんきょうのとき、たくさんけしごむをつかつていたということがわかりました。

【親】この本はオムくんが間違っただけを消した消しカスで作つた消しゴムで不思議な体験をする話です。

オムくんはあわてんぼうですが、間違いにすぐ気付き、間違っただけを消すことが出来るのが凄いと思います。

また、その消しカスで新たな消しゴムを作る事が可能な量の、勉強をする力がある子だと思いました。毎日、消しカスを集めるその様子に、私自身も消しカスではありませんが、集めていたなあと、何でそれをしようと思つたのか、何が目的だったのか、未だに分かりませんが、鮮明に覚えていて、当時は大きな使命を果たすべく行つていたように思います。

オムくんは出来上がった消しゴムで不思議な体験をしますが、ボタンの花も、そうやキリンもどきもオムくんが描いた絵から想像した事なのかなと思ひました。

「となりのトトロ」のように、子どもの時にしか会えない、体験できないものオムくんはきつと、大人の階段を登り、オムくんのまちがい消しゴムで、想像と現実、正解と不正解を判別し始めたのかな、と思ひました。ところが、オムくんはもう一度作ろうとします。きつとオムくんは同じ期間カスを集めても、それ程の量が集まらないかもしれせん。

私が現在欲しい不思議消しゴムは：何でも良いや別に、と思つてしまう程忙しく、現実主義になつてしまふ心です。

【親】「この本を読んでどう思った？どんなお話だった？」

【子】「うーん。なんだろう？」

【親】「この本を読んで、あいさつをすることはやっぱり良いことだなあと思つたね。」

【子】「うれしいよね。」

【親】「どうしてそう思つたの？」

【子】「人からあいさつをされると、こころがよくなるから。」

【親】「心が良くなるつて、それはどういう気持ちのこと？」

【子】「こころがあなたかくなるから。」

【親】「そうだね。あいさつをして、あいさつをかえしてくれると、気持ち良くなるよね。ところで、バスで学校に行つていたぼくは、どうして明日から三人と一緒に歩いて行こうと思つたのかなあ？」

【子】「わるいことをしたと思つたから。」

【親】「何が悪かつたの？」

【子】「バスにのつていたこと？」

【親】「三年になるまでいいつて書いてなかつた？」

【子】「そっか。じゃあなんでだろう？」

【親】「あいさつをしてくれたのがうれしかったんじゃない？毎日一緒に歩いて行けば、あいさつできるし、このぼくも心があなたかくなつたんじゃないかなあ。」

【子】「そうかもしれない。ぼくもあいさつしてくれる子たちとは、なかよくしたいと思うから。」

【親】「そうだね。やっぱりあいさつは大事だね。毎日しっかりあいさつしようね。」

【子】「はい。」

今年の親子読書におしやれキャットという本を息子が持って帰り一緒に読みました。

この話はお金持ちのおばあさんが飼っているネコの親子をしつじのエドガーがおばあさんの死んだ後、自分が遺産をひとり占めしたくて、邪魔だからと捨てに行ったりひどい事をしたりして、最後にはバチが当たってしまうという話でした。

⑥「この本を読んでどう思った？」

⑦「捨てられたネコの親子達を助けてくれたのらネコのオマリーがかっこ良かったよね！ 途中、子ネコのマリーが橋からおちて、おぼれそうになったのを自分も飛び込んで助けてあげたのがすごいじゃん！ あんな高いところから恐くないのかなあ？」

⑧「怖いじゃろうなあ…。会ったばかりの子にそこまでできるのって勇気いる事よな！」

⑨「ほんまよなあ。俺だったら、恐いし無理かもしれん…。最後のところで、仲良しのネズミのロクフォールもネコが嫌いなのに、友だちを助けたいからって勇気出してのらネコ達を呼びに行ったのもすごいし、のらネコ達もみんなエドガーをやっつけたのもすごかったなあ。」

息子にもこのネズミやのらネコのように困った人がいたら助けてあげられる優しい子になって欲しいと思いました。

【子】

一人でくらししていたおばあさんが四ひきのネコをかっていました。おあさんネコの名前はダッチェスで、あと三びき子ネコがいます。

このネコたちはとてもかしくておばあさんのことばがわかるし、絵をかいたり、ピアノをひいたり、うたをうたったりできるみたいでわたしはびっくりしました。

そしてなんと、おやしきにすむネズミともなかよしです。

ある日ネコたちが町はずれにすてられてしまいました。

おうちにかえるためにのらネコのなかまにたすけてもらったりなかよしのネズミたちにきょうりよくしてもらったりしてネコたちをすてたわるい人をこらしめました。

四ひきのネコだけではおうちにかえれなかったとおもうけど、いろんな人にたすけてもらうことができよかったです。わたしもおもいました。わたしもこまったことがあったら、だれかにきょうりよくしてもらいたいなとおもいました。

ながいみちのりがあるいてくたくなったとき、ネコたちは音がくでつかれをふきとばしました。わたしもピアノをひくとたのしくて元気になるのでおなじだなおもいました。

【親】

久しぶりに一緒に本が読めて楽しかったです。

寝る前の読み聞かせも、最近子どもも毎日忙しく、なかなかできていなかったのので良い機会になりました。

舞台がパリということで、おしやれな雰囲気と、音楽の楽しさが伝わってきて、ピアノをがんばっている娘にも共感できる部分があったようです。ハラハラしながらも癒されるすてきなお話でした。